

大解剖その3

参加者の声を集めました



これまで参加した人たちの声を集めたよ。アート作品のように何度も見返すことができないのがパフォーミング・アーツ。毎回、その一瞬に勝負をかけて、いつまでもお客さんの心に残るようなものにしたい！そんな思いでパフォーミング・アーツを届けているよ。

Asia Performing Arts Market in Setouchi 2016 高松港

西洋音楽の音階やリズムでない、アジアパフォーマー達の音が感覚的にしっくりきて自分がアジア人なんだと改めて思った。今まで感じていた音楽に対する違和感は間違いではなかった。一度にこんなにたくさんアジアのパフォーマンスに触れる機会はそうそうないと思う。

40代・主婦



スナッフパペッツ | 瀬戸内の巨大パペッツ (沙弥島, 2016年)

スナッフパペッツ

沙弥島・ナカンダ浜

どうなるんだろう?と思いつながりアーティストと一緒に作った、大きな人形が動いて感動した。お客さんも喜んでよかった。観るだけでなく参加できてよかった。

20代/人形制作WS参加・会社員

大解剖その4

今すぐ参加したい! パフォーミング・アーツ



芸術祭の会期外もパフォーミング・アーツを行っているよ。すぐに参加できるものを紹介するね。



映画×食×夜のスペシャルツアー 「女木島名画座上映会」

北川フラム総合ディレクターが案内をつとめる「女木島名画座上映会」は、年に3回行われます。映画が上映される場所は、女木島にあるアート作品「ISLAND THEATRE MEGI『女木島名画座』」です。ニューヨークに最後まで残った42番街の古い映画館をイメージした作品で、実際に映画を見て、その映画にまつわるゲストと北川ディレクターの対談を楽しめます。その後、料理人による瀬戸内の食材を使った料理を食べて、特別公開される夜のアート作品を鑑賞し、高松港へ戻るとい「ぎゅっ」といような要素が詰まったツアーです。



毎月開催! みんなで祝う 「島のお誕生会」

豊島で毎月開催している「島のお誕生会」は、2014年に始まりました。毎月、島キッチンテラスなどで開催され、その月に生まれた方を、豊島の方、観光客、アーティスト、こえび隊がお祝いします。10年続く「島のお誕生会」は、豊島のみならず日常になりつつあります。誕生月の方もそうでない方も参加することができます。



Photo: Shintaro Miyawaki



Photo: Shintaro Miyawaki

木ノ下歌舞伎

小豆島・肥土山農村歌舞伎舞台

どんな演劇なのかと思って来たが、演劇って何かわからなくなった。色んな要素がいっぱい詰まっていて、歌舞伎小屋もよかったし本当に総合芸術だった。あの日の天気も含めて奇跡みたいだった。

30代・会社員



木下歌舞伎 | 竜宮鱗屏譚 (せとうちろうくずものがたり) ~GYOTS~ (小豆島, 2022年)



Photo: Osamu Nakamura
維新派 | (彼)と旅をする 20世紀三部作 #3 「台湾の、灰色の牛が背のびをしたとき」(犬島, 2010年)

維新派 犬島・特設会場

犬島まで来てこの作品を観ることができて本当に良かった。こんな演劇があるんだとビックリした。きっと二度と巡り合えないのだろう。もしあの場所でいつか再演できたとしても2010年の私は今の私とは違うのであの時とはまた違う事を感じるんだろうと思う。2010年の夏の作品を一生の思い出にします。

50代・団体職員

瀬戸内国際芸術祭

パフォーミング・アーツ大解剖!



今回は、瀬戸内国際芸術祭のパフォーミング・アーツを特集。えびおくと一緒に大解剖していきます。

大解剖その1

そもそもパフォーミング・アーツってなに?



パフォーミング・アーツのパフォーミングは、身体を使って表現するという意味。アーツは、アートの複数形で芸術のことだね。身体を使って表現する芸術だから、演劇、ダンス、音楽、伝統芸能などのいろいろなジャンルのことを指しているよ。



写真は全て Shintaro Miyawaki

- 1 切腹ピストルズ | せつぷくびとるず 神出鬼没船 (男木島, 2016年)
- 2 カンパニー ディディエ・テロン | AIR・LA GRANDE PHRASE (女木島, 2016年)
- 3 讃岐獅子舞保存会 | 『舞』讃岐の伝統~新たな時代へ~ (高松港, 2019年)
- 4 指輪ホテル | 讃岐の晩餐会 (栗林公園, 2016年)

大解剖その2

お客さんはどんな体験ができるの?



パフォーミング・アーツには、演劇、ダンス、音楽、伝統芸能などが含まれているってことが分かったね。芸術祭では、アーティストがこれらのパフォーマンスを披露するとき、いろいろな工夫がされているよ。お客さんには、今まで経験したことのない体験をしてもらいたいからね。

新しい景色が見られる

こんな景色が見られるんだ! この会場は初めて! 天然の自然や景色を背景に行われるパフォーマンスは圧倒的。今まで見たことのない風景や場所に会わせてくれます。

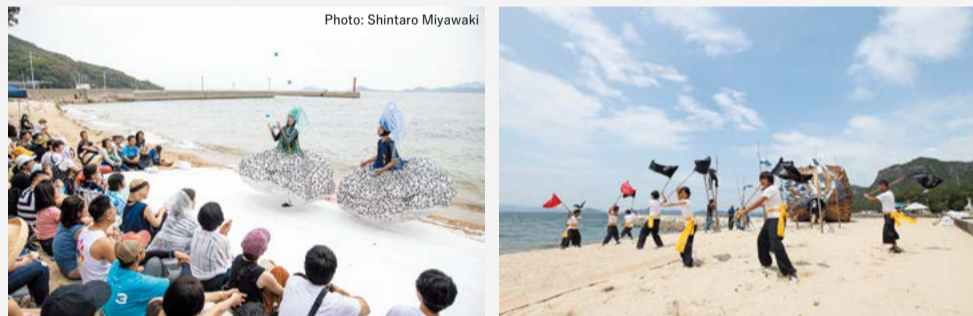


Photo: Shintaro Miyawaki
ひびのこづえ | WONDER WATER 男木島 ver. (男木島, 2019年)

リン・シュンロン/ツァイス・劇団 | 国境を越えて・海 (豊島, 2013年)

夜の景色が見られる

夜のパフォーミング・アーツは特別なこと。本土側で鑑賞可能なパフォーミング・アーツが用意されていることもあり、島から帰った後、夜の瀬戸内を堪能することができます。また、芸術祭の会場の島々は、船の時間に限りがあります。夜のパフォーマンスを見た後は、芸術祭が手配する船に乗り、夜の島、海を見ながら帰ります。船から見える夜景は非日常です。



Photo: Shintaro Miyawaki
やなぎみわ | 日輪の翼 (高松港, 2016年)

ご飯が食べられる

パフォーミング・アーツなのに、ご飯が食べられるというユニークな内容。パフォーマンスとご飯がセットになり、見て、食べて、五感で楽しむことができます。



Photo: Shintaro Miyawaki
瀬戸内少女歌劇団 | せとうち物語ー粟島編ー (粟島, 2019年)

参加できる

パフォーミング・アーツの中には、アーティストの制作のお手伝いに参加したり、出演者としても参加可能なものがあります。そして、観客のはずがアーティストに巻き込まれて、いつの間にか出演者になってしまうということもあります。



Photo: Kimito Takahashi
現代源平屋島合戦絵巻 (高松, 2013年)

日本とアジアの最先端

日本のトップアーティストだけでなく、国境も越えて、アジアで一番面白いパフォーマンスを見ることが出来ます。瀬戸内にいながら、日本、アジアの最先端のパフォーミング・アーツを体験できます。



Photo: Kimito Takahashi
Bangladesh Project | 高松港・アート工房ーベンガル島ー (高松港, 2013年)



2024年 春 発行



瀬戸内国際芸術祭サポーター こえび隊

「こえび新聞」は芸術祭を支えるこえび隊がつくる、島の人々、アーティスト、お客さんをつなぐ新聞です。芸術祭の話、島々の話、こえび隊の話……、瀬戸内の色々な出来事を発信していきます。

発行元: 特定非営利活動法人 瀬戸内こえびネットワーク 編集: こえび新聞編集部 〒760-0019 高松市サンポート1番1号 TEL 087-813-1741 Mail info@koebi.jp Web http://www.koebi.jp @ www.instagram.com/koebitai/ www.facebook.com/koebitai

1934年3月16日、瀬戸内海は日本で初の国立公園に指定されました。こえび新聞21号では香川県出身の小西和を特集しました。彼は、1911年に「瀬戸内海論」を発行したのち、国立公園指定に尽力した人物です。その「瀬戸内海論」には、瀬戸内海環境・景観・文化財の保存、外国人観光客の誘致などにも触れ、今に通じる内容が随所に見られます。国立公園指定から90年の現在、瀬戸内海は世界から観光客が訪れる場所となりました。今回のこえび新聞は、瀬戸内海の島々の歴史、文化、自然、景観などを生かしながら行ってきた瀬戸内国際芸術祭のパフォーミング・アーツを深掘り＆大解剖します。